

# 令和2年度病害虫発生予察警報第1号

令和2年9月3日  
愛知県

作物名：水稲

病害虫名：トビイロウンカ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い

### 3 警報発令の根拠

- (1) 令和2年8月17日付で注意報を発表したが、9月3日時点で、西三河地域（西尾市、岡崎市）及び東三河地域（東栄町、新城市、田原市）の水田で本種（図1及び図2）による**坪枯れ（図3）が確認され**、今後も被害拡大のおそれがある。
- (2) 本田すくい取り調査において7月上旬に岡崎市、新城市、豊川市、長久手市、8月上旬に西尾市、豊川市で本種成虫が捕獲された。8月下旬には、本田払い落とし調査で岡崎市、豊田市、新城市、豊川市、田原市、長久手市と県内の広い範囲で捕獲され、一部のほ場では株元への多数の成幼虫の寄生が確認された。
- (3) 予察灯では長久手市で7月10日、8月14日及び25日に各1頭、弥富市で8月23日に1頭、誘殺された。
- (4) 日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる本種成虫の飛来解析によれば、本年は飛来に適した気象条件が20回以上出現しており、県内各地で坪枯れが多発した平成20年よりも飛来予測回数が多い状況となっている。
- (5) 名古屋地方気象台9月3日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温は高いと予想されており、今後も本種の発生に好適な気象条件が続くと考えられる。

### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 坪枯れ（図3）が確認されたほ場周辺では、本種が発生している可能性が高いため、早急に防除する。
- (2) 本種は地域やほ場により発生状況が異なるため、坪枯れの初期症状を見落とさないようほ場の見回りを十分に行い、本種が寄生している場合は、直ちに防除する。
- (3) 本種は株元に生息するので、液剤や粉剤を使用して防除する場合は、株元に薬剤が十分かかるように散布する。
- (4) 粒剤を使用する場合は水田を湛水し、早急に散布する。
- (5) 防除薬剤は表1を参考に選択する。
- (6) 収穫期近くになって坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く収穫を行う。

### 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室  
電話：0561-62-0085（内線471）



図1 トビイロウンカ成虫（長翅型）



図2 株元に群がるトビイロウンカ（成幼虫）



図3 トビイロウンカによる坪枯れ

表1 トビイロウンカに対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボン乳剤	エトフェンプロックス	収穫14日前まで	3回以内	3A
アルバリン/スタークル粉剤DL				
アルバリン/スタークル粒剤	ジノテフラン	収穫7日前まで	3回以内	4A
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤				
エクシードフロアブル	スルホキサフロル	収穫7日前まで	3回以内	4C
スタークル液剤10	ジノテフラン	収穫7日前まで	3回以内	4A
トレボン粉剤DL	エトフェンプロックス	収穫7日前まで	3回以内	3A

使用回数は同一成分の剤を含む成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf)を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。